

平成25年度第2回 函館市観光基本計画策定検討委員会 会議録

■ 開催概要

開催日時：平成25年6月27日（木） 10:00～12:00

開催場所：函館市役所8階 第2会議室

出席委員：木村委員，蝦名委員，遠藤委員，奥平委員，折谷委員，中野委員，西村委員，
藤森委員

欠席委員：和泉委員，市根井委員，黒川委員，國分委員，小林委員，田中委員，全委員

函館市：観光コンベンション部次長，観光振興課長

日本観光振興協会：楡木研究部長，全研究員

■ 次第

- 1 開 会
- 2 討 議
- 3 委員長総括
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

■ 討 議

（木村委員長）

前回の委員会では「10年後の函館観光のあり方」について議論をし、各委員から色々なご意見を頂戴することができた。

議題一点目の基本理念について、限られた時間の中、この場で決定することは難しいと思うので、キーワードまでは何とか今回の委員会での討議で導き出したい。そのうえで、次回までに事務局と相談しながら、いくつかのたたき台をお示しできればと考えている。

今までの第1次計画から第3次計画までの基本理念におけるテーマについてだが、「観光資源の掘り起こし」，「観光の産業化」，「観光文化のまちづくり」と次々にステップアップしてきている。次のステージとしてどういう考え方がふさわしいか、その点が議論の一番のポイントになってくる。

（奥平委員）

日本が高度経済成長から成熟経済へと移行する中で、函館市の観光基本計画も自然と変わってきたのだと思う。国内向けには、これまでの計画の中で十分練られてきた。海外向けについては、まさにこれからだと感じている。海外に向けてどのように函館の良さを発信していくのが大事である。

もう一つの方向性として、人口が減ってきたからといって街が後退するのではなく、交流すること、賑わうことで街が変わるという視点を持つことも必要である。人が集まってくることによって、新しいものが生まれるということはこの計画の中で謳っていく必要もあると思う。

(木村委員長)

はっきりとした方向性が示されていなかった国際観光について、FIT（個人手配による外国人旅行者）の増加やジャパンレールパスの影響、東南アジアからの観光客への対応など、具体的に考える材料が出てきた。海外への情報発信および受入整備は要素として必要だと強く思っている。

(遠藤委員)

国内の旅行者の動きは、団体から個人へと変わってきている。これからのターゲットとして考えられる東南アジアは、日本の10年前、20年前と同じで団体旅行が多いが、将来的に、ある程度の経済レベルにまで達してくると、個人型へと推移していくのではないかと思っている。国内の状況を見ると、個人型ではネットを通じた手配が多くなっており、そうなる、やはりネットでの発信を強めていくことが最も効果的である。

(木村委員長)

国際観光都市としてリアリティを持ってきた現在では、海外との関係について具体的なところまで落とし込んで考えていく必要があり、基本理念の中にも盛り込むべきだと思う。

(中野委員)

確かに最近になって外国人観光客に関するニーズが増えてきたという実感はある。10年後、20年後には、アジアからだけではなく世界中から観光客を呼べるような観光都市にしたいと思っている。そういった願いも込めて、ぜひ基本理念にも国際観光の視点を盛り込んでほしい。

東南アジアの国々は貧富の差が大きく、日本に来ている方々は富裕層が多いが、台湾や韓国などは中間層が多い。一言で国外と言っても国や地域によって全く状況が異なり、特にムスリムには特別な配慮が必要である。外国人観光客の受入にはあらゆる対応が必要とされる。

(西村委員)

これからの10年間を見据えた場合、国際化に向けて本気でやっつけようという方向性を、基本理念においてもしっかりと示すべき。この観光基本計画は、外に対してPR

するためのものではなく、市民に対して、具体的に何をしていくべきかを発信するためのものだ」と認識している。

また、海外だけでなく、国内にもきちんと目を向けなければならない。

(藤森委員)

かなりの数の外国人観光客が来ているのは実感する。これまでの海外向けプロモーションの成果だ。これからも伸びしろは大いにある。450万人の観光客のうち、17万人が海外ということを見ると、主体は国内になるのかも知れないが、観光協会としても海外からの観光客数を伸ばしたいという思いもあり、基本理念に盛り込んだ上で、具体的な活動指針を決めていくべき。

(蝦名委員)

海外からの観光客へ函館の魅力を伝えるにあたり、地元がその魅力をきちんと把握しておかねば伝えづらい。

(木村委員長)

我々が活用している観光資源が、海外の人々にとっては、全く別の価値観で捉えられることがあるということについて、きちんと認識しておかなければ、いくら国際観光都市といっても、具体化していかない。

(折谷委員)

おもてなしが重要だと思うが、満足というのは時代によって変わるので、おもてなしも進化していかななくてはならない。

(木村委員長)

おもてなしということでは、ラグジュアリーなサービスを頂点に、様々なレベルのサービスを提供することが求められる。

以前に「交流と賑わい」というキーワードが提起されたが、コンベンションも交流の創出では重要だ。

(奥平委員)

アリーナの着工が目の前であるが、函館の知名度からいって、ある程度のクラスのコンベンションが来るであろう。学会は夏休み開催が多く、家族連れで来る研究者も多い。これはリピート率向上に繋がっていく。

夏休み期間中ということでは、各種のお祭り期間ともぶつかっている。コンベンション受け入れのために、お祭りの開催時期の再配置というのも考えなくてはならない。

また、お祭りに関して、港まつりとねぶた祭りの開催時期が重なっている。観光客にとっては、この2つが重なるのはもったいない。

(木村委員長)

交流には連携もある。新幹線開業によって、青函が繋がることになるので、今、例として挙げた港まつりとねぶた祭りも、容易に行き来できるようになる仕組みができてくると思う。今は、交通の障壁があって、簡単に行けないイメージがあるが、だいぶ変わってくるので、地域連携について理念に盛り込めるといい。

(蝦名委員)

青函の連携は重要だが、差別化しないと意味がない。青森や、他の、例えば札幌などといった都市と違うのは、西部地区や湯の川地区にあるような、大人っぽい憧れ感やブランド感と、修学旅行などで気軽に来られる身近さ、これらの二面性が共存しているところ。様々な魅力に溢れた宝箱のイメージに合致する。

(木村委員長)

先ほど出た、ラグジュアリーからカジュアルまで幅広い楽しみ方のできる街、という意見に通じるものである。

欠席委員から寄せられた意見でも、「極上」「スロー」「おもてなし」といったコンセプトが寄せられており、まとめると、極上のおもてなしをゆっくりと味わって欲しい、ということだと思う。

国際化にあたっては、交流とにぎわいを生み出す仕組みが必要で、それを実現するような各種の取り組みを施策に盛り込む、という方向で議論を進めたい。

ここまでの議論や、資料の中の基本理念の考え方を見て、キーワードや方向性は確認できているのだが、理念として成文化するにあたり、何か足りないと感じている。

今日までに出したものを整理すると、「真の意味での国際化の必要性」「交流とにぎわい」「連携と差別化」「おもてなしと満足」といったことだと思う。

今、この場で基本理念を定めるのは難しいので、委員長と事務局に一任してもらい、いくつか案を作り、次回これを検討することとしたい。

次に二点目の目標設定に移る。これは量的目標と質的目標である。この場では、方向性を確認したい。

今日の資料では、観光庁の目標値を参考としているが、函館の状況とは合っていない部分もある。そこを指摘していただきたい。

(遠藤委員)

宿泊日数では、周遊旅行では一泊が多い。ゴルフやスキーなど、目的を定めて来てもらえるような情報発信をしなければ、宿泊日数増には繋がらない。

(中野委員)

観光庁の目標数値は、あまりにも函館の実態とは懸け離れているので、北海道の数値などを活用してはどうか。

入込客数が伸び続けていくとは考えられず、入込客数が減るとしても、消費額を増やすことで、函館への経済効果を維持することを考えなければならない。

(木村委員長)

入込数は現実的な数値で設定したい。ただ、現実に寄りすぎて、あまりにも低い目標では、計画として意味をなさないとも考える。

その他の部分ではいかがか。

(折谷委員)

観光が、自分たちの暮らしに深く関係しているのを伝えることで、市民意識の改革を図るべきである。

また、クルーズ船効果について、盛り込むのはいかがか。年々来航数が増えており、訪問客をもてなすことで、市民意識の改革にも繋がる。

(奥平委員)

クルーズ船の効果は大きい。函館は港湾整備の面で遅れているので、埠頭整備を観光計画に盛り込むべき。

そのほか、観光看板・標識を各国語表記にすることも大事だが、マークなどを多用して、誰にでも分かるようにすることで、外国人のみならず、万人に優しい街となる。ユニバーサルデザインの考え方である。

(中野委員)

市でサンプルを示したり、補助金を支出したりすると、民間でも導入が促進される。

また、標識・看板だけでなく、飲食店などのメニュー表にも同様の考えが必要だ。

(遠藤委員)

外貨を両替できる場所が限られているので、外国人観光客に消費してもらうためには、クレジットカードが有効であるが、クレジットカード使用不可の店が多いのが問題。

(木村委員長)

これもバリアフリーの一つといえる。

(中野委員)

情報のバリアフリーとして、Wi-Fiの問題がある。外国人が無料で使える環境整備について目標とすべきである。

■ 委員長総括

本日は、キーワードも、目標設定に対する意見も多く得られた。次回は、具体的なたたき台を元に、基本理念や目標設定を決定したい。

■ その他

次回開催は7月16日から19日のうち、いずれかを予定している。

■ 閉 会